

グローバル人材の育成に向けて

本県では、グローバル人材の育成に向けた児童生徒の英語力向上に向け、「英語で考えや気持ちを伝え合う」児童生徒の育成に向けた取組を重点的に展開しています。

そこで、本年度の管内の英語教育における目指す児童生徒像を、小学校においては「自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童」、中学校においては「自分の考えや気持ちを伝え合ったり書いたりすることができる生徒」と設定し、共通の目指す児童生徒像の実現に向け、各学校で、玉名教育事務所教育指導の重点における具体的な取組の1つである「英語で考えや気持ちを伝え合う言語活動を通した指導の充実」を取り組んでいただきました。

管内小・中学校英語授業づくりプロジェクト研修では、小・中学校の円滑な接続を目指した共通実践として、言語活動の1つであるスモール・トークにおける中間指導や見取りの方法、さらに中学校においてはスモール・トークから書くことにつながる言語活動の工夫について提案しました。各学校におかれましては、研修での学びを英語担当者全員で共有し、「英語で考えや気持ちを伝え合う」児童生徒の育成に向け、今後も授業改善に努めていだきますようよろしくお願ひいたします。



言語活動を行う際のポイント

- ①「めざす児童生徒の姿」を子どもたちと共有
※具体的な英文でイメージ ⇒ 具体的な指導や手立て
- ②コミュニケーションの目的や場面、状況を明確に設定
※題材が児童生徒にとって興味・関心のあるものになっているか
※単元を通して、児童生徒が活動の目的を意識できているか
- ③中間指導（練習 ⇄ 確認）
※教師の意図を一方的に優先するのではなく、多くの児童生徒の考え方や意見を取り上げる
- ④単元を通して、段階的・継続的に言語活動を設定

笑顔輝く子どもたちのために

本年度、玉名教育事務所では、教育指導の重点の1つとして「豊かな心の育成」を掲げ、各学校に、いじめ・不登校・問題行動の未然防止と早期対応を行っていただきました。道徳科の授業や人権学習を中心とした道徳教育及び人権教育の充実や、児童生徒一人一人の心に寄り添った関わり等による未然防止の取組に感謝申し上げます。また、欠席が増加し始めた児童生徒には「愛の1・2・3運動+1」や「SC・SSW等の専門家及び関係機関との連携」を早期に対応いただいたことが、不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒等の心の居場所づくりに確実につながっており、不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒等への専門家及び関係機関の支援率は11月末日時点で100%です。

昨今、児童生徒による問題行動等は多様化しています。その中でも、特に、性被害・性加害への対応が喫緊の課題となっています。各学校においては、未然防止だけでなく、SC・SSW等の専門家や関係機関等との連携体制の整備にも努めています。今後も、いじめ・不登校・問題行動の未然防止と早期対応につきましては、1人で抱え込まれるのではなく、組織的に対応いたしますようお願いいたします。



～編集つづれ～

「挑戦」の二文字が、玉名教育事務所のスローガンに掲げられている。自分の人生を振り返ると、歳を重ねるにつれ挑戦することをさせてきたように思う。ある時からこれからの自分の生き方について考えるようになり、6年前から水泳に挑戦することにした。初回の練習から、週に1回以上プールに通い毎回1キロメートル泳ぐことを決めた。水泳を始めた当初は、経験の無さからプールを一往復するだけで息切れし何回も休憩しないと苦しく辛かった。今でも冬のプールに入水する時の冷たさや、気分が乗らない時の練習にはとても勇気がいる。しかし、水泳に挑戦したことで様々な人と出会い、新しい発見や経験をする機会をいただけたようになった。さらに、一歩目を踏み出す難しさも改めて学んだ。職場の仲間から「やめないことが素晴らしい、人はやめることが多いから。」と励ましてもらったことも挑戦意欲を高めるきっかけとなり感謝している。私の水泳に関する目標は、県民体育祭に出場し続けることと、泳いだ距離の合計が1000キロメートルに到達すること。「少しずつ少しずつ、それが大きい」を信じて。